

令和6年度 渡島フロンティア人材育成事業

事業概要

世界遺産である「縄文文化」の継承・活用を管内の地域課題とし、小・中・高の児童生徒の発達段階に応じ、探究的な学びを継続的に深め、ふるさとへの愛着を育むとともに、未来の社会を生き抜く資質・能力を身に付けた人材の育成を図る。

令和5年度の成果と課題

- 高校生が道外における実践交流会や視察研修等を通じて、縄文学習を深めた。
- 小・中学校、高等学校が連携し、系統的で効果的な縄文学習を進めるため、教育課程の整理を行った。
- ▼ 探究的な学びをより充実させるため、表現（発信）する場面の設定を工夫する必要がある。

縄文を通じた南茅部地区の児童生徒の探究的な学びの深化を目指した取組

道南地域での縄文文化発信活動

渡島総合振興局(環境生活課) 連携

PRのための知識・技能の習得

- 南茅部地区の縄文文化の価値や可能性について深く学ぶ
- 幼児児童に分かりやすく伝えるためのノウハウを学ぶ

高校生PRサポーター活動の実施

- 幼児児童を対象とした、参加型の学習の実施
例：縄文紙芝居・かるた、土器作り体験 など

世界遺産『縄文』を核とした地域の魅力向上活動

民間団体・自治体・大学 連携

地域イベント等への参画

- はこだて縄文まつりへの運営協力、ブース展開
- 縄文DOHNANプロジェクトとの連携

縄文遺跡の有効活用について検討・発信

- 縄文遺跡利活用のための情報収集・課題検討
例：利用者アンケートや感想の収集
函館市や大学との地域づくり連携 など

期待される効果

- 探究的な学びの成果を相手や目的に応じて伝える能力＝インタープリテーション能力の向上
- 学びを深め、新しい発想や探究的な視点を獲得したフロンティア人材の育成
- 地域住民の「主体的な意識」による地域振興・地域づくりの推進